

# 都市が進める 「ナイトタイムエコノミー」



かみや しゅんいち  
**神谷 俊一**

ちば  
千葉市長(千葉県)



はざま としや  
**迫 俊哉**

おたる  
小樽市長(北海道)



小樽市

千葉市



米子市

浜田市

司会・コーディネーター

ほその すけひろ  
**細野 助博**

中央大学名誉教授



くぼ たしょういち  
**久保田 章市**

はまだ  
浜田市長(島根県)



いぎ たかし  
**伊木 隆司**

よなご  
米子市長(鳥取県)

世界の観光地で、夜の時間帯の経済活動「ナイトタイムエコノミー」の活性化に向けた取り組みが活発に進められています。夜間のにぎわい創出、観光客の滞在時間延長、消費額拡大による夜の経済活性化など、地域振興につながる取り組みとして日本でも注目を集めており、夜の魅力にあふれたスポットの紹介、観光地でのライトアップ、夜間イベントの実施など、さまざまな取り組みが行われています。

座談会では、ナイトタイムエコノミーの活性化に力を入れる迫・小樽市長、神谷・千葉市長、伊木・米子市長、久保田・浜田市長にお集まりいただき、取り組みの概要とその効果、ナイトタイムエコノミーに関わる人材育成の重要性、市民理解の促進策、今後の展望などについて語っていただきました。(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)



小樽市長

ナイトタイムエコノミーを推進し観光消費を拡大させ量より質の観光へと転換を図っています。

迫 俊哉  
小樽市長(北海道)

## 夜の経済活性化に向けて

**細野** 夜間の経済活動である「ナイトタイムエコノミー」は、観光振興も含めた需要サイドの最後のフロンティアとして、地域活性化の有望な施策分野だと私は考えています。それでは、各地で行われているナイトタイムエコノミーに関する取り組み内容についてお話しください。

**迫** 小樽市は明治期に北海道内陸部で産出された石炭輸送のため、鉄道や港湾施設が整備されて以来、大手銀行や商社の支店、商店や問屋街、倉庫群などが建ち並ぶようになり、北日本随一

の商都とまで言われるようになりました。今でも当時造られた歴史的建造物がカフェや博物館などに活用されています。こうした歴史的資源にも恵まれた小樽市は、年間700万人以上の観光客が訪れる、全国有数の観光地として発展しました。

しかし、小樽市の観光は、日帰り観光客の割合が高い、いわゆる通過型観光という課題を抱えています。これを滞在型観光へと転換させ、観光消費を拡大するためにも、ナイトタイムエコノミーの推進は極めて重要です。幸い、近年、市中心部にホテルの建設が相次いでいることから、この機に乗じて、さらに夜の魅力を高め、夜間消費を拡大させていきたいと考えています。

これまでも小樽市では官民一体となって、歴史的建造物のライトアップをはじめ、夜の魅力を発信する事業を進めてきましたが、この5月には新たに夜の飲食店を多言語で観光客などに紹介する案内所「ナイトインフォメーション」を市中心部に設けました。また、本年は小樽運河竣工から100年を迎えることから、9月半ばから12月末まで開催するロングランイベント「小樽運河100年プロジェクト」の中で、ナイトタイムエコノミーの推進に向けた各種催しも行っています。

**神谷** 千葉市は東京都心や成田空港・羽田空港への距離が近く、国内外の人流を取り込むポテンシャルを有しています。また、市内には大型コンベンション施設「幕張メッセ」やプロ野球チームのホームスタジアム「ZOZOマリンスタジアム」など、夜の魅力の創出に寄与する各種インフラも整っています。千葉市では、こうした立地特性や地域資源を生かし、ナイトタイムエコノ



ライトアップされた小樽市指定歴史的建造物「北海製罐小樽工場第3倉庫」(小樽市)

ミーの推進による経済振興に取り組んでいます。近年、特に力を入れているのが公共空間の夜間利用を促進し、イベント開催を通して、にぎわい創出を図る取り組みです。千葉市として、事業者や関係機関と協議を進めるなどして、JR千葉駅前大通りの歩道を活用した「屋台横丁」、夜の千葉公園を舞台に市の花「オオガハス」の開花時期に合わせたナイトイベント「Yohas(夜ハス)」など、公共空間を用いた夜間イベントの開催に力を尽くしてきました。また、市内での宿泊者を増やし、夜の経済活性化につなげるため、国際会議はもちろん、世界最高峰のアクションスポーツの祭典「X Games Chiba」をはじめ、大規模イベントの誘致や開催支援にも取り組んできました。同時に、夜間のイベント開催に向けた事業

## 夜間のにぎわい創出を 目的に、公共空間の 夜間利用を積極的に進め イベント開催を 促進しています。



神谷 俊一  
千葉市長(千葉県)

者支援の一環として、イベントが軌道に乗るまでの事業費の一部を補助する独自の支援制度も構築し、多くの事業者に利用いただいています。

**伊木** 米子市は中国地方最高峰の大山のふもと、日本海と中海に囲まれた自然豊かな街です。その日本海側に面した位置にある「皆生温泉」は古くから観光地として発展してきました。コロナ前で年間約40万人の宿泊客がありましたが、コロナ禍で客数が落ち込む以前から減少傾向が続いていました。団体旅行から個人旅行や女子旅へと、大きく変化した近年の旅行トレンドに対

し、温泉地としての取り組みが立ち遅れたこともその要因です。そこで、改めて、地元の人たちが温泉地で楽しめるようなエリアに再整備することで、そのことが観光客の誘因につながるのではないかと想定し、地元旅館経営者の皆さんを中心に「皆生温泉まちづくりビジョン」を平成31年に策定するとともに、その実行組織として「皆生温泉エリア経営実行委員会」も設立しました。以来、夜間にそぞろ歩きをしたくなるまち並みを目指して、エリア内の照明の更新・暖色化を行う「皆生みらいの灯り推進事業」などを推進してきました。

同時に、米子市では、中心市街地の夜の魅力も向上させようと、「ヒカリで米子の魅力を発信しよう!」をコンセプトにしたライトアップイベントを「Yonagoヒカリ☆マチプロジェクト」と称し、定期的に開催しています。期間中には米子城跡や米子市公会堂など市内の観光スポットでライトアップを行うほか、商店街を舞台にしたイルミネーションコンテスト、夕暮れ時に中海に現れる美しい太陽の道(オレンジロード)を米子城から眺める「米子城オレンジロード観望会」など、夜の街の魅力を光で引き出していこうとする取り組みを始めました。

**久保田** 島根県西部に位置する浜田市は交通アクセスがよくありません。東京・大阪から訪れる場合には、飛行機の利用が一般的ですが、浜田市から最も近い「萩・石見空港」からでも乗用車で約1時間、バスと電車を乗り継ぐと約1時間半を要します。交通の便がよいことは、観光に不利であることは確かですが、その一方で、来訪してもらえれば、市内宿泊の可能性は格段に高まるという利点もあります。



夜の千葉公園を舞台に行われるナイトイベント「YohaS(夜ハス)」(千葉市)

浜田市への来訪を促すために、最も効果的な観光資源は、石見地方で古くから継承されてきた伝統芸能「石見神楽」です。特に浜田市は、9市町からなる石見地方の中で最も多い50を超える神楽団体が活動しており、石見神楽を創り出したまちともいわれています。

この石見神楽は地域の例祭の前夜祭として明け方まで奉納されるのが本来の姿ですが、市の観光振興策として、観光客向けの夜神楽公演や、団体宿泊客を対象にした神楽上演の派遣事業なども行っており、好評を得ています。また、通常の奉納神楽は、各地域の氏神様を祭るもので、例年9月から11月までの3カ月を中心に行われています。昨年からは、この期間を「石見の神楽在月」と称し、地域内の神楽上演を観光客にご覧いただく



稼げる観光地となるため  
マネタイズ（収益化）の  
考え方を重視し  
その仕掛けづくりに  
知恵を出し合っています。

伊木 隆司  
米子市長（鳥取県）

キャンペーン施策を石見地方全体で始めました。浜田市では、このように石見神楽を観光資源として積極的に活用することで、地域を訪れ、宿泊する人の数を増やしながら、市の魅力である海の幸や温泉なども楽しんでいただく。そのような形でナイトタイムエコノミーを推進しているところです。

### 人材育成に力を尽くす

**細野** 現在、旅行需要が急回復する中、観光業

の人手（量）や人材（質）の不足、接客サービスの低下が大きな課題になっています。持続可能な観光の実現にも関わる問題だと思いますが、どのように対応されていますか。

**迫** 観光を構成する要素といえば、「見る」「食べる」「泊まる」「体験する」がありますが、全て接客を伴います。観光に関わる人たちの接客の質を高めることで、持続可能な観光地として、地域のファンを増やし、リピーターの獲得や増加につなげていきたい。そうした考えから、小樽市では外部機関から専門家を招いて、ホスピタリティの向上のため、セミナーや講習会を開催したり、市内の飲食店などが提供するサービスや雰囲気、商品価格などを覆面調査するなど、官民一体で取り組みを進めています。ゆくゆくはおもてなし力の認証制度の確立も目指しています。

**神谷** 大規模な夜間イベントを開催するには、それを支えるボランティア人材が不可欠です。千葉市では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、ボランティア体制の構築にも取り組み、多くの市民が研修を受け、都市ボランティアとして登録いただきました。残念ながら、大会自体は無観客での開催となったため、活動の出番はありませんでしたが、語学力に秀でた方も多く、ナイトタイムエコノミーを推進する上でも、千葉市にとつて欠かせない人材だと考えています。そこで、過去にボランティアとしてイベント開催に協力いただいた方々を含め、市内のボランティア人材を千葉県と連携し



「皆生みらいの灯り推進事業」として、皆生温泉エリア内の照明の更新・暖色化を実施（米子市）

て組織化し、県内で新たに開かれるイベントへの参加を促す取り組みも進めています。

**久保田** 石見神楽における持続可能性を担保する上で、最も重要なことは後継者の育成です。その点、浜田市では、複数の子ども神楽団体が活動しているほか、そうした団体の活動を支援するNPO法人も組織化されています。また、地元の金融機関の協力の下、日ごろの練習の成果を披露する催しも毎年開かれています。地域を挙げて後継者の育成に努めているために、演者の平均年齢は比較的若く、担い手不足などの問題は今のところ発生していません。それどころか、「大人になっても神楽を演じ続けたい」と、高校卒業後も浜田市に残ってくれる地元愛にあふれた若者も数多く育っています。

**伊木** 観光地としての持続可能性を考えると、地域全体で観光消費を伸ばし、稼げる地域となることも大切です。そのためには、米子市では、「マネタイズ（収益化）」の考え方を一番意識しています。例えば、観光にいらした方が米子城跡

石見神楽を積極的にPRし  
来訪・宿泊される方々を  
増やし、夜の観光を  
楽しんでいただきたいと思います。



久保田 章市  
浜田市市長(島根県)

から夕日をご覧になって、その美しさに感動されたとしても、「きれいだね」で終わってしまっ  
ては、地域にお金は落ちません。一方で、その  
シチュエーションに合った魅力的な商品やサー  
ビスをタイミングよく提供できれば、観光消費  
の促進につながることができます。その観点か  
ら、米子市では、市内の飲食店と協力し、米子  
城をイメージした5層からなる特製パフェを  
「475(よなご)パフェ」として売り出すなど、

地域全体でマネタイズに至る仕掛けづくりに注  
力しているところです。

### 市民への理解醸成にも注力

**細野** ナイトタイムエコノミーを地域全体で進  
めるには、市民や多様な業種の民間事業者の理  
解や連携・協力も大事だと思います。

**迫** 小樽市では、ナイトタイムエコノミーの取  
り組みに関し、特に市民から批判などは出てい  
ませんが、施策を力強く推進するためにも一層  
の市民理解は欠かせません。観光は地域経済の  
起爆剤として非常に重要であることを市民に認  
識してもらえよう、行政としても説明に努め  
る必要があると思います。

**神谷** 夜間のイベント開催に対して、いかに市  
民理解を得ていくのか、千葉市においても重要  
な課題です。特に大規模イベントを開催する際  
には、市民との距離が生じてしまわないよう、  
市民にとって身近なイベントであることを実感  
してもらう工夫も大切です。実際、ある大規模  
音楽イベントでは、市内でバンド活動を行う人  
たちに、前座への出場権をかけたオーディション  
を実施するなど、市民の参加意識を高める取り  
組みも進めています。千葉市としても、例えば  
スポーツ大会に出場する有名選手と市民が触れ  
合う機会を創出するなど、イベント開催への理  
解を促進するような取り組みも積極的に進めて  
いきたいと思っています。

**久保田** 石見神楽を演じるのは、市民の皆さん  
です。仕事をしながら、夜間や土日に演者とし  
て活動を行っています。時には、海外や東京な  
どで公演を行う場合もありますが、その場合は  
仕事を休んで参加されます。その意味では、所



観光客向けに行われる夜神楽公演の様子(浜田市)

属される地元の企業や団体を含め、幅広い理解  
が欠かせません。昨年は70人の団員を引き連れ  
て、東京の国立劇場で公演を行いました。私  
は、団員が所属する企業の経営者に協力をお願  
いするお手紙を出しました。また、島根県西部  
の9市町で構成する石見神楽広域連絡協議会会  
長として、神楽の振興に貢献した企業・団体へ  
の表彰も行っています。

**伊木** 地域全体で施策を進めるためにも、官民  
連携は重要です。皆生温泉の活性化に向けた取  
り組みに関しても、特に初めのうちは、民間の  
動きを引き出すために行政が積極的に関与する  
ことで、取り組みを具体的に前に進めることが  
できました。ただし、一度問題意識を共有し、  
事業が動き出せば、後は行政が動き掛けなくて



細野 助博  
中央大学名誉教授

も、民間は積極的に取り組みます。  
これは、個々の店舗が行うインバウンド対策でも同様です。コロナ禍前の話ですが、例えば、ある焼き肉店は外国人観光客に非常に人気が出てきたことから、自ら外国語対応もしつかり取られていました。需要があれば民間事業者も充実したサービスの提供に努める、いわば需要とサービスはセットなのだと思感しました。

**新たな需要を見極めた対応を**

**細野** それでは今後、観光以外にも含め、さらに力を入れていきたい事柄についてもお聞かせください。

**久保田** ナイトタイムエコノミーは観光の視点で語られることが多いですが、浜田市への宿泊者の過半は、ビジネス目的です。こうした方々も、観光客の皆さんと同様に、石見神楽を鑑賞され、夜の経済活性化に貢献いただいています。そのような実態に照らして考えれば、観光客に限らず、ビジネス客を含め、来訪者の数を増やしていくことが重要です。その観点から、浜田市では大会や会議の誘致や行政視察の受け入れなどにも力を入れています。

**伊木** 米子市の中心市街地には、山陰地方を代表する大きな歓楽街がありますが、コロナ禍が落ち着いた今でも、飲み会の二次会需要は戻っていません。夜の消費文化や消費の慣行が大きく変化した可能性もありますから、米子市としては二次会の時間帯に楽しんでもらえる新たなマネタイズの仕掛けづくりにも力を入れていきたいと考えています。

**神谷** 千葉市内で行われる国際会議の開催件数は、コロナ対策の期間中減少しました。WEB会議も普及・定着したことから、以前の需要を完全に戻すことは難しいでしょう。一方で、X Games、eスポーツなどの新たな大会を誘致したところ、予想以上の集客力があることが分かりました。ナイトタイムエコノミーを効果的に進めるためにも、どこに需要があるのか、経済拡大につながる有効なコンテンツは何であるのかを見定めて、的確に支援策を講じるなど、コロナ禍で起こったさまざまな社会変化を踏まえた対応にも注力していく必要があると考えています。

**迫** 先ほど、伊木市長は、需要とサービスはセットであるとおっしゃいましたが、その通りだと思います。小樽市でも運河と小樽港を船で周遊する「小樽運河クルーズ」を民間が行っていますが、人気が高まるにつれて、主体的に時間延長を行うなど、サービスの充実に努めるようになりました。逆に言えば、需要がないものを、いくら行政が働き掛けても、なかなか前に進まないということですね。今後は、行政として何が観光客から求められているのかを見極め、地域内で広く共有することも大切になってくると思います。



**細野** コロナ禍によって、DXの推進をはじめ、社会のさまざまな分野で急激な構造変化が起きました。この流れはもはや止まりません。自治体は世の中の新たな潮流に適応しながら、持続可能な地域活性化に向けて実効的な経済施策を進めていく必要があります。

今後も、市民や民間事業者との連携・協力の下、各地域ならではの資源やコンテンツを生かしながら、夜の楽しみ方を拡充・発信していただきたい。そして、豊かで多様な消費活動のさらなる拡大に努め、付加価値の高い地域経済を創り上げていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

(令和5年7月11日、全国都市会館にて開催)  
本コーナーは隔月掲載となります。次回は11月号に掲載予定です。